KORG DIGITAL PIANO

CONCERT

C-4500

お買い上げいただきありがとうございます。
本製品を末永くご愛用いただくためにもこの取扱説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。

取扱説明書

目次

HI HYPER INTEGRATED SYNTHESIS SYSTEM

KORG

PC I/F

Ⓙ ①

安全上のご注意

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.

CAUTION
RISK OF ELECTRIC SHOCK
DO NOT OPEN

AVERTISSEMENT:
RISQUE DE CHOC ÉLECTRIQUE—NE PAS OUVRIR.

注意 感電の恐れあり、キャビネットをあけるな

CAUTION: TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK, DO NOT REMOVE COVER (OR BACK). NO USER-SERVICEABLE PARTS INSIDE. REFER SERVICING TO QUALIFIED SERVICE PERSONNEL.

マークについて

この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。

このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。

このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近に置いて、お子様から専門家の方まで幅広く愛用していただけます。
デジタル・ピアノは大きくて重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での置き場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。小さなお子様には、最初にご家族の方が教えてあげてください。

⚠ 警告

- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
- 設置は、水平で平らな床面に行ってください。
- 本製品を移動するときは、デジタル・ピアノ本体とスタンドを別々にし、必ず2人以上で持ち上げてください。
- 次のような場合には、直ちに電源を切り電源プラグをコンセントから抜いて、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。
  - ○ 電源コードやプラグが破損したとき
  - ○ 異物が内部に入ったり、製品に液体がこぼれたとき
  - ○ 製品が（雨などで）濡れたとき
  - ○ 製品に異常や故障が生じたとき

- 本製品は、キーカバーまたは譜面立ての開閉時に、指や手を挟みこむ恐れがありますので、十分に注意してください。

- 修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。最寄りのコルグ・サービスセンターまたはコルグ営業技術課へ、必ず相談してください。
- 本製品の上へ乗ったり、下へもぐり込んで遊ばないでください。
- 本製品の上へ、物を置かないでください。落ちると危険です。
- デジタル・ピアノ本体に、前後方向から無理な力を加えないでください。転倒の危険性があります。
- 地震時は、本製品に近づかないでください。
- 電源コードは、無理に曲げたり、重いものを上に乗せないでください。電源コードに傷がつき危険です。
- 本製品を単独で、またはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合、設定によっては、永久的に難聴になる程の音量になります。大音量や不快を感じる音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水やジュースなど）を絶対にいれないでください。
- 次のような場所での使用や保存はしないでください。
  - ○ 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
  - ○ ホコリの多い場所
  - ○ 振動の多い場所

- 濡れた手で、本製品を使用しないでください。

- 風呂場、シャワー室などで、本製品を使用しないでください。

- 本製品を水気のある場所で使用しないでください。
- 本製品に水をかけたり、水をこぼさないでください。

- この機器を分解したり、改造しないでください。

⚠ 警告（スタンド）

- 付属のスタンドは、取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って、確実にデジタル・ピアノ本体を設置し、使用してください。
- 長期間使用になりますと、スタンドのネジが緩む場合があります。使用中にスタンドの揺れを大きく感じるときは、安全のため、取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って、ネジを締め直してください。

⚠ 警告（イス）

- 付属の椅子は、ピアノの演奏用のみに使用してください。椅子で遊んだり踏台にすると、転倒したり壊れたりして危険です。

- 付属されている椅子の高さ調節は、椅子から降りてから、確実に行ってください。腰掛けたままで行うと、手を挟むことなどがあり危険です。

- 付属の椅子は一人用です。二人以上で腰掛けないでください。

⚠ 注意

- 本製品は、正常な通気が妨げられることのない所に設置し、使用してください。
- 本製品は、マイクロコンピュータを使用した機器です。このため、ラジオやテレビなどを接近して同時に使用すると、それらに雑音が入ることがあります。また、ラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて、誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは、充分に離して使用してください。
- 他の電気機器の電源コードと一緒のタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミに必要以上の力を加えると、故障の原因となりますので注意してください。
- 外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は、絶対に使用しないでください（コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可）。

- 電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。

- 長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

バックアップ・バッテリーについて

本製品は、電源オフ後にメモリーの内容が消滅するのを防ぐために、バックアップ用のバッテリーを装備しています。電源オン時に［TOUCH］スイッチのランプが点滅しましたらバッテリーを交換する必要があります。最寄りのコルグ製品取扱店または ㈱コルグ営業技術課にお問い合わせください。

○［TOUCH］スイッチを押すと点滅は解除されます。

データについて

万一異常な動作をしたときに、メモリーの内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータは外部のデータファイラー（記憶装置）等にセーブしておいてください。また、データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

取扱説明書の表記について

スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は［　］で括っています。

：使用上の注意を表します。

（☞p.■）：参照ページを表します。

：設定した内容の記憶に関する記述を表します。

演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。

また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

おもな特長

多彩な音色 (☞p.11)

コンサートグランドピアノの音色をはじめ、コルグ独自のHI(Hyper Integrated)シンセシス・システムによる豊かな表現力を生む、高品位な6種類の音色を内蔵しています。同時に2つの音色を組み合わせて演奏することができる、レイヤー機能を内蔵しています。

エフェクト機能 (☞p.11)

コンサートホールで演奏しているような響きや、音にうねりを与え、広がりのある豊かな響きにするデジタルエフェクトを内蔵しています。

ペダル効果 (☞p.12)

アコースティックピアノと同じようにダンパー効果、ソステヌート効果、ソフト効果の3機能があります。本機ではダンパー・ペダルが、アコースティックピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴効果を再現します。また、ダンパー・ペダルとソフト・ペダルには、ペダルを踏む深さにより効果のかかり方が調整できるハーフペダルを使用しています。

メトロノーム機能 (☞p.13)

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセント音にベルの音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

レコーダー機能 (☞p.16)

テープレコーダーを操作する感覚で、自分の演奏をそのまま録音・再生できるレコーダーを内蔵しています。

タッチコントロール機能 (☞p.14)

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを、3種類の中から選択できます。

音 律 (☞p.15)

平均律の他に、2種類の古典音律(キルンベルガー、ヴェルクマイスター)を選択することによって、古典音楽等の再現も可能になります。

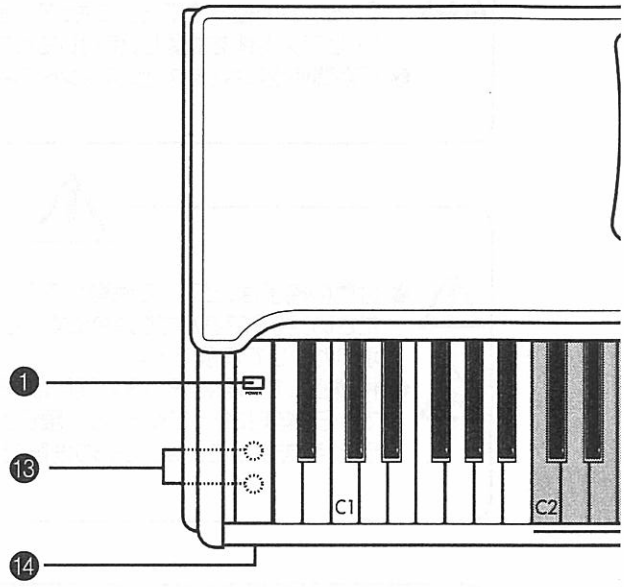
音程の調節 (☞p.14)

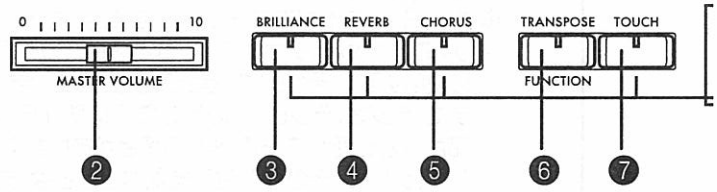
トランスポーズ機能により移調を、ピッチコントロール機能により音程の微調整を行うことができます。

MIDIの装備 (☞p.18)

電子楽器やコンピュータの間で、演奏情報のやりとりを行う統一規格MIDIを装備しています。MIDIを使えば、接続した機器間で相互にコントロールすることができ、本機を16パートマルチティンバー音源としても使用することができます。

C-4500各部の名称とその機能





❶ **[POWER](パワー)スイッチ**
電源をオンまたはオフにします。押すたびにオン、オフが切り替わります。(☞p.7)

❷ **[MASTER VOLUME](マスター・ボリューム)スライダー**
スピーカーやヘッドホン、アウトプットから出る音量を、コントロールするスライダーです。(☞p.7)

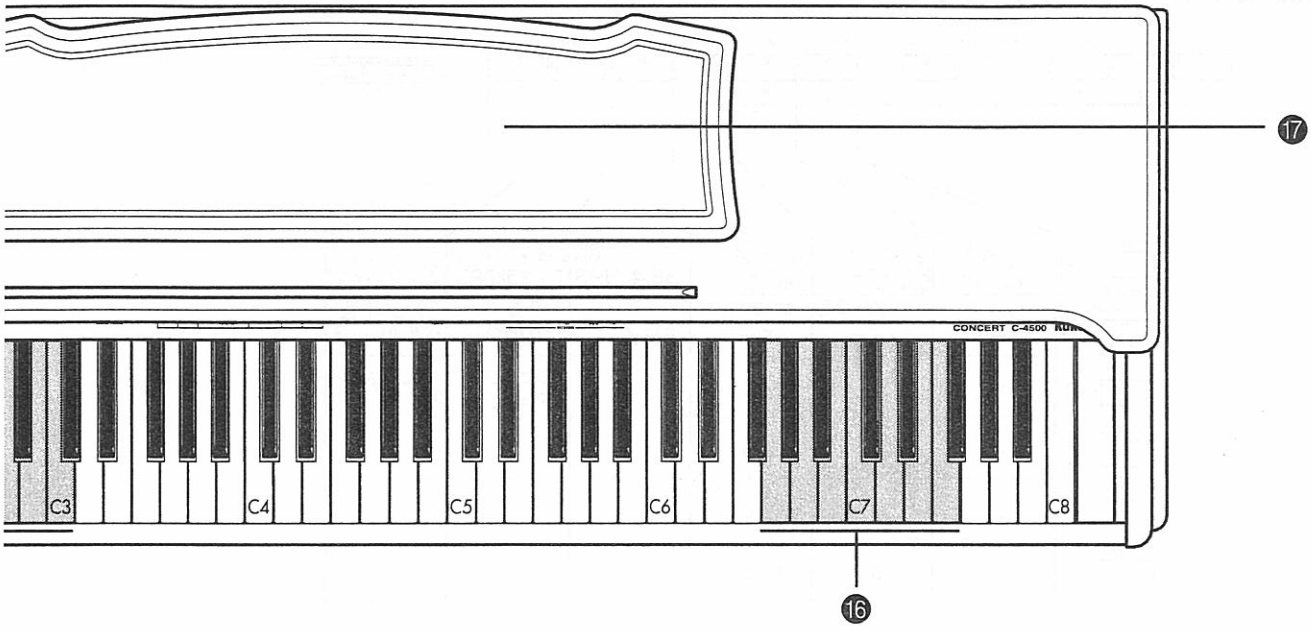
❸ **[BRILLIANCE](ブリリアンス)スイッチ**
音色の明るさを設定するスイッチです(☞p.11)。

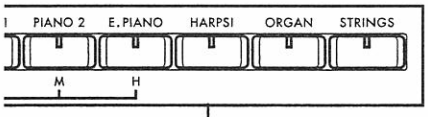
❹ **[REVERB](リバーブ)スイッチ**
音に残響を加えるスイッチです(☞p.11)。

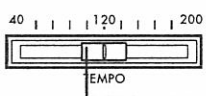
❺ **[CHORUS](コーラス)スイッチ**
音に広がりを加えるスイッチです(☞p.12)。

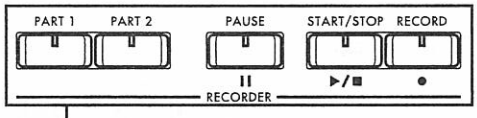
❻ **[TRANSPOSE/FUNCTION](トランスポーズ/ファンクション)スイッチ**
MIDIに関する設定(☞p.19)や、移調するときに使います(☞p.14)。この他さまざまな設定にも使用します。

❼ **[TOUCH](タッチ)スイッチ**
鍵盤のタッチを設定するスイッチです(☞p.14)。









❽ **[音色セレクター] スイッチ**
音色を選びます（☞p.11）。
同時に2つの音色で演奏（レイヤー機能）することもできます。[PIANO1]、[PIANO2]、[E.PIANO1]、[HARPSI]、[ORGAN]、[STRINGS]の6音色から選択します。

❾ **[TEMPO]（テンポ）スライダー**
メトロノーム、レコーダーのテンポを調節します（☞p.13）。

❿ **[METRONOME]（メトロノーム）スイッチ**
メトロノームをスタート/ストップします（☞p.13）。

⓫ **[RECORDER]（レコーダー）操作部**
演奏を録音/再生します（☞p.16）。

⓬ **[DEMO]（デモ）スイッチ**
デモ曲を演奏します（☞p.9）。

⓭ **PHONES端子（本体底面にあります。）**
ステレオヘッドホンを接続します（☞p.7）。

⓮ **POWERランプ**

⓯ **MIDIチャンネル用鍵盤**
MIDIチャンネルを設定します（☞p.19）。

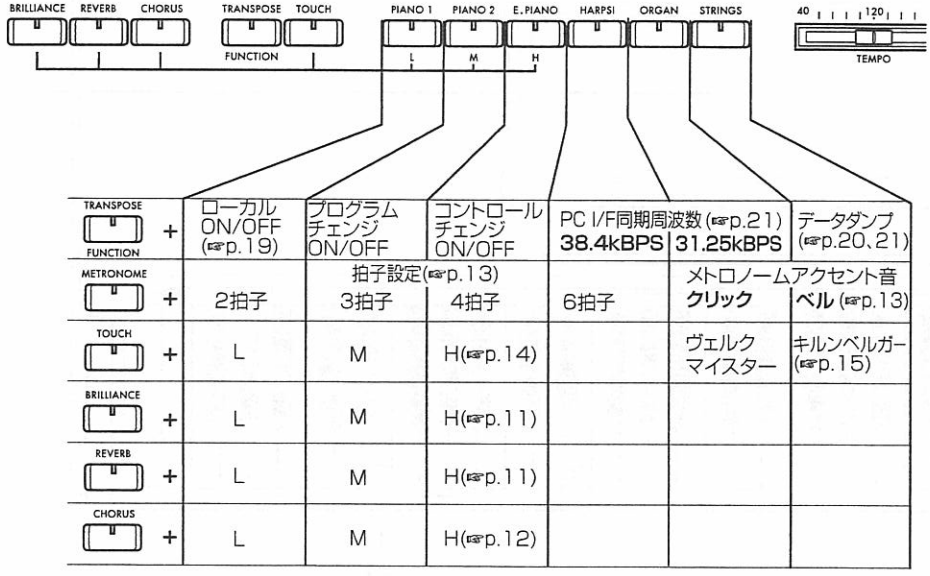
⓰ **トランスポーズ用鍵盤**
トランスポーズ（移調）をします（☞p.14）。

⓱ **譜面立て（☞p.7）**

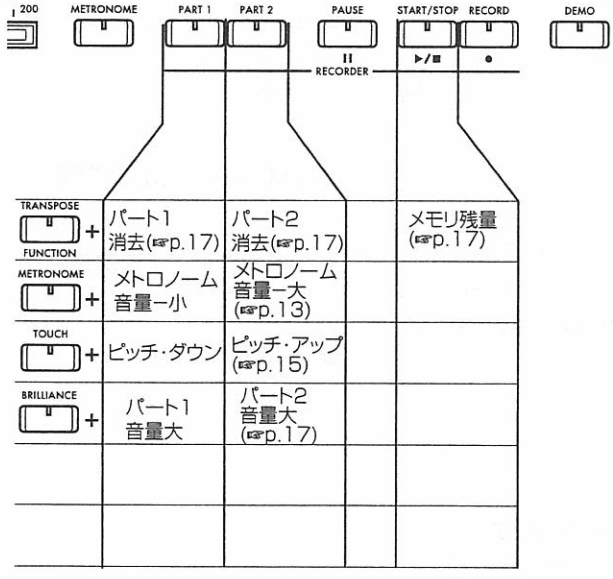
スイッチの機能

2つのスイッチを同時に押して、設定するスイッチの一覧です。

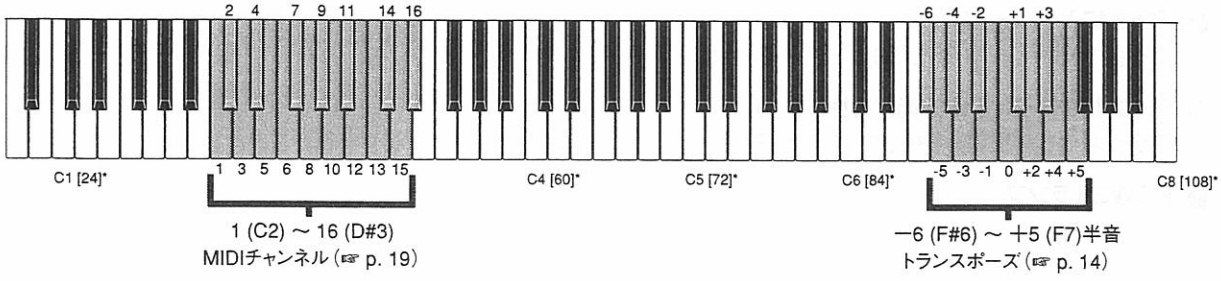
○ [音色セレクター] スイッチ



○ レコーダー部



○ 鍵盤



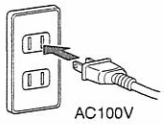
* [ ] 内はMIDIノートNo.

演奏するための準備

演奏を始める前に

1. 電源コードを差し込みます。

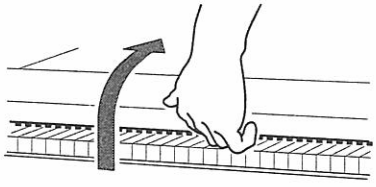
電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。



必ず**AC100Vの電源コンセント**に、差し込んでください。

2. キーカバーを開けます。

へりの中央部分を軽く持ち上げて支えながら、静かに奥の方へスライドさせます。

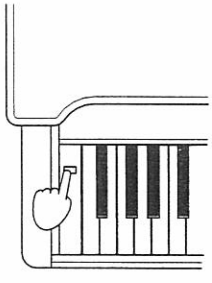


キーカバーを閉じるときは、へりの中央部分を軽く持ち、手前へスライドさせます。

- 開閉中は、指や手を挟まないように十分注意してください。
- 無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になることがあります。
- キーカバーを開けるときは、キーカバーの上に紙やコインがないことを確認してください。中に入り込む恐れがあります。

3. 電源をオンにします。

[POWER]スイッチを押して、電源をオンにします。



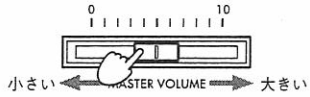
電源をオンにすると、正面左側にあるPOWERランプが点灯します。

電源をオフにするときは、もう一度[POWER]スイッチを押します。

電源をオフにすると、正面左側にあるPOWERランプが消灯します。

4. 音量を調節します。

[MASTER VOLUME]スライダーで、本体のスピーカーとヘッドホン端子、リアパネルの[OUTPUT] 端子から出力される音量をコントロールします。



[MASTER VOLUME]スライダーを中程まで上げます。スライダーを右に動かすと音が大きくなり、左に動かすと音が小さくなります。"0" の位置では音が出ません。

実際に弾きながら適度な音量に調節してください。

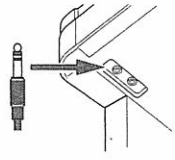
ヘッドホンを使うときは

本体左側底面にあるヘッドホン端子に、ステレオヘッドホンのプラグ(標準プラグ)を差し込みます。

ヘッドホンを差し込むと、本体のスピーカーからは音が出なくなります。

夜間などの周囲へ伝わる音が気になるときは、ヘッドホンをお使いください。

ヘッドホン端子は2つありますので、2人で演奏を楽しむことができます。



- ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。
- ミニ→標準の変換プラグのついたヘッドホンをご使用の場合、プラグの抜き差しは変換プラグを持って行ってください。

譜面立てを使うときは

譜面立てを起こし、裏面についている2つのストッパーを使って倒れないようにします。

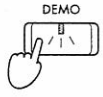
デモ演奏を聴いてみましょう

本機にはデモ演奏を18曲内蔵しています。デモ演奏を聴いて、本機の豊かな音色とその表現力を確認してください。

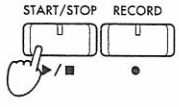
1	PIANO1	F.ショパン/幻想即興曲 Op.66
2	PIANO2	KORGオリジナル / Harmony of Love
3	E.PIANO	KORGオリジナル / The Harp of Wind
4	HARPSI	J.S.バッハ / イタリア協奏曲 BWV971
5	ORGAN	F.メンデルスゾーン / ウェディング・マーチ
6	STRINGS	J.S.バッハ / G線上のアリア
7	PIANO1	L.v.ベートーヴェン / エリーゼのために
8	PIANO2	W.A.モーツァルト / ソナタ K.331 第3楽章「トルコ行進曲」
9	E.PIANO	F.ブルグミュラー / ブルグミュラー25のやさしい練習曲より「貴婦人の乗馬」 Op.100-25
10	HARPSI	F.メンデルスゾーン / 春の歌 Op.62-6 ～無言歌集第6巻より
11	ORGAN	R.シューマン / トロイメライ Op.15-7
12	STRINGS	F.ショパン / 別れの曲 Op.10-3
13	PIANO1	F.ショパン / ワルツ 第6番 変ニ長調「小犬」 Op.64-1
14	PIANO2	F.ショパン / ノクターン第2番 Op.9-2
15	E.PIANO	C.ドビュッシー / アラベスク 第1番
16	HARPSI	C.ドビュッシー / 月の光
17	ORGAN	E.サティ / ジムノペディ第1番
18	STRINGS	E.エルガー / 愛の挨拶

すべてのデモ演奏を聴くときは

1. **[DEMO] スイッチを押します。**
   [音色セレクター] スイッチのランプが "順番に点灯" を繰り返し、デモモードになります。



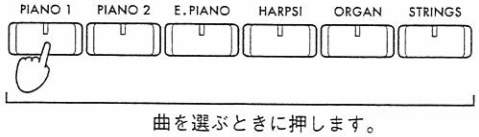
2. **[START/STOP] スイッチを押します。**
   1曲目から18曲目まで順番に演奏します。
   最後の曲が終わると1曲目に戻り演奏を続けます。



演奏中に [音色セレクター] スイッチを押すと、そのときに演奏している曲のバンク(1～6曲目、7～12曲目、13～18曲目)での繰り返し演奏に切り替わります。例えば、1 曲目を演奏中に [音色セレクター] スイッチの [STRINGS] スイッチを押すと、6曲目が演奏され、以後1曲目から6曲目まで順番に演奏を繰り返します。

曲を選んでデモ演奏を聴くときは

1. **[DEMO] スイッチを押します。**
   [音色セレクター] スイッチのランプが "**順番に点灯**" します。
   このときに、[音色セレクター] スイッチを押すと、**1～6曲までの曲**が聴けます。



曲を選ぶときに押します。

2. **もう一度 [DEMO] スイッチを押します。**
   [音色セレクター] スイッチのランプが "**すべて同時に点滅**" します。
   このときに、[音色セレクター] スイッチを押すと、**7～12曲までの曲**が聴けます。
3. **さらに、もう一度 [DEMO] スイッチを押します。**
   [音色セレクター] スイッチのランプが "**1つおきに交互に点滅**" します。
   このときに、[音色セレクター] スイッチを押すと、**13～18曲までの曲**が聴けます。
4. **ここでもう一度 [DEMO] スイッチを押すと、デモモードから抜けます。**
   デモ曲を演奏中に [DEMO] スイッチを押しても、デモモードから抜けます。

デモ曲で演奏練習をする

デモ曲に合わせて演奏練習をすることができるように、さまざまな操作をすることができます。

右手パートと左手パートを別々に聴くときは

7～18曲目のデモ曲は右手のパートと左手のパートを、別々に演奏することができます。
どちらかのパートをデモ演奏させ、もう一つのパートをミュート(消音)して、自分で演奏して練習することができます。

1. **[PART1] または [PART2] スイッチを押します。**
   スイッチを押すとそのスイッチのランプが点滅し、そのパートがミュート(消音)します。
   [PART1] スイッチを押すと、左手のパートがミュート(消音)し、[PART2] スイッチを押すと右手のパートがミュート(消音)します。
2. **ミュートを解除するときは、ランプの点滅しているパートのスイッチを押し、点灯させてください。**

デモ演奏を一時停止するときは

○ **演奏中に [PAUSE] スイッチを押すと一時停止します。**
再度 [PAUSE] または [START/STOP] スイッチを押すと続きから演奏を再開します。

デモ演奏のテンポを変えるときは

○ **デモ演奏中、または止まっているときに [TEMPO] スライダーで調節します。**(☞p.13)

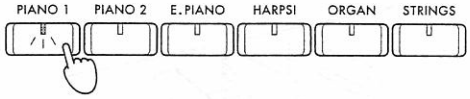
デモ演奏中は [音色セレクター] スイッチで音色を変更することはできません。また、メトロノーム機能は動作しません。

デモ演奏のテンポは [TEMPO] スライダーの目盛りの数字とは一致しません。目盛りの中央(120)が曲に設定されている元のテンポになります。

弾いてみましょう

1. 音色を選ぶ

○ **[音色セレクター] スイッチを1つ押して、弾きたい音色を選びます。**
選んだ[音色セレクター]スイッチのランプが点灯します。



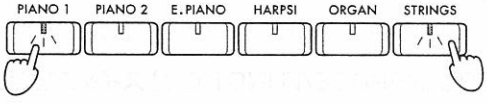
音色の内容については下の表をご覧ください。

PIANO1	深みと艶があり華やかに響くグランドピアノの音
PIANO2	クリアで明るいグランドピアノの音
E.PIANO	軽やかで透明感のあるエレクトリックピアノの音
HARPSI	クラシックな趣きのあるリアルなハープシコードの音
ORGAN	荘厳なパイプオルガンの音
STRINGS	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音

2つの音色を組み合わせて演奏するときは（レイヤー機能）

1つの鍵盤を弾いたときに、2つの音色（たとえば[PIANO1]と[STRINGS]）を同時に鳴らして、演奏することができます。これを**レイヤー機能**といいます。

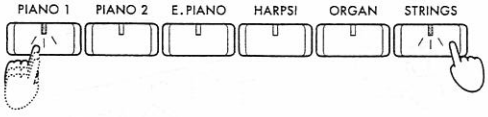
1. **2つの [音色セレクター] スイッチを同時に押します。**
選んだ2つの[音色セレクター]スイッチのランプが点灯します。同時発音数は32音（PIANO1の音色を選んでいるときは21音）になります。



2. **レイヤーを解除するときは [音色セレクター] スイッチを1つだけ押します。**

2つの音色の音量バランスを変えるときは

○ **音量を小さくするほうの [音色セレクター] スイッチを押しながら、音量を大きくする [音色セレクター] スイッチを繰り返し押します。**
バランスが決まったら、[MASTER VOLUME] スライダーで音量を調整してください。



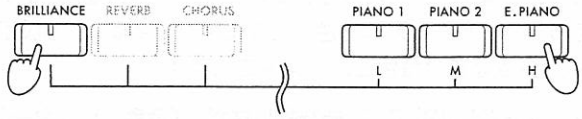
MeMO 音量バランスは、レイヤー機能を解除したあとや電源をオフにしたあとも記憶されます。

2. 音色に効果を加える

音の明るさを調節するときは

音の明るさは音色ごとに設定できます。この設定は変更するまで音色ごとに保存されます。

1. **[BRILLIANCE] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの [PIANO1/L]、[PIANO2/M]、[E.PIANO/H] のうち1つを押して、音の明るさを選びます。**



PIANO1/L	MELLOW: やわらかい音色になります。
PIANO2/M	NORMAL: "MELLOW" または "BRIGHT" の設定が解除され、通常の効果に戻ります。
E.PIANO/H	BRIGHT: 明るめの音色になります。

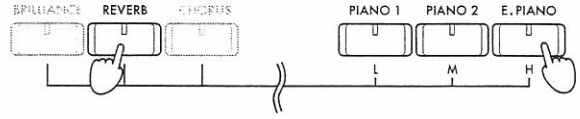
2. **現在選ばれている音の明るさを確かめるときは、[BRILLIANCE] スイッチを押し続けます。**
[音色セレクター] スイッチの [PIANO1/L]、[PIANO2/M]、[E.PIANO/H] のうち、設定したスイッチのランプが点灯します。

3. **音の明るさを元に戻したいときは、[BRILLIANCE] スイッチを押して [BRILLIANCE] スイッチのランプを消灯させます。**

音に残響を加えるときは

[音色セレクター] スイッチで選んだ音色に残響と深みを加え、コンサートホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。これを**リバーブ効果**といいます。
リバーブ効果は音色ごとに設定できます。この設定は変更するまで音色ごとに保存されます。

1. **[REVERB] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの [PIANO1/L]、[PIANO2/M]、[E.PIANO/H] のうち1つを押して、リバーブの深さを選びます。**



PIANO1/L	リバーブ効果が浅くかかります
PIANO2/M	リバーブ効果がやや深くかかります
E.PIANO/H	リバーブ効果が深くかかります

2. **現在選ばれているリバーブの深さを確かめるときは、[REVERB] スイッチを押し続けます。**
[音色セレクター] スイッチの [PIANO1/L]、[PIANO2/M]、[E.PIANO/H] のうち、設定したスイッチのランプが点灯します。

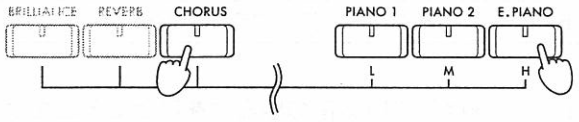
3. **リバーブ効果をかけないときは、[REVERB] スイッチを押します。**
リバーブがオフになり、[REVERB] スイッチのランプが消灯します。

MeMO [PIANO1]、[PIANO2] の音色では、アコースティックピアノの弦の響きをシミュレートするためリバーブをオフにしても、わずかにリバーブ効果が残ります。

音に広がりを加えるときは

[音色セレクター] スイッチで選んだ音色にうねりを加え、広がりのある豊かなサウンドにします。これを**コーラス効果**といいます。コーラス効果は音色ごとに設定できます。この設定は変更するまで音色ごとに保存されます。

1. **[CHORUS] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの [PIANO1/L]、[PIANO2/M]、[E.PIANO/H] のうち、1つを押してコーラスの深さを選びます。**



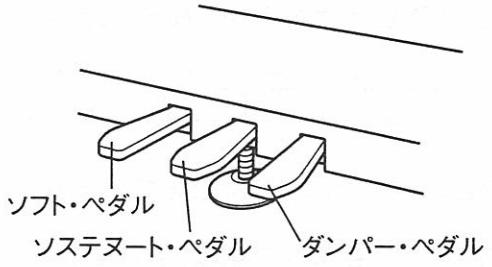
PIANO1/L	コーラス効果が浅くかかります
PIANO2/M	コーラス効果がやや深くかかります
E.PIANO/H	コーラス効果が深くかかります

2. **現在選ばれているコーラスの深さを確かめるときは、[CHORUS] スイッチを押し続けます。**
[音色セレクター] スイッチの [PIANO1/L]、[PIANO2/M]、[E.PIANO/H] のうち、設定したスイッチのランプが点灯します。

3. **コーラス効果をかけないときは、[CHORUS] スイッチを押して [CHORUS] スイッチのランプを消灯させます。**

3. ペダルを使う

ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類の機能があります。これらの機能を使って演奏をより効果的に表現することができます。



ダンパー・ペダル
ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます（ハーフペダル効果）。

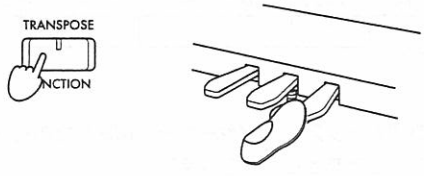
ソステヌート・ペダル
ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に、弾いた音に対してはダンパー効果はかかりません。

ソフト・ペダル
ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで、音のやわらかさを変化させることができます（ハーフペダル効果）。

レイヤー時のペダルの設定

レイヤー機能を使用しているときに、ダンパー・ペダルの効果を2つの音色のどちらにかけるかを設定します。

○ **[TRANSPOSE/FUNCTION] スイッチを押しながら、ダンパー・ペダルを踏みます。**
ダンパー効果がかかる [音色セレクター] スイッチのランプが点灯します。
ダンパー・ペダルを踏むたびに、"一方の [音色セレクター] スイッチ" ➔ "もう一方の [音色セレクター] スイッチ" ➔ "両方の [音色セレクター] スイッチ" の順番で効果のかかり方が切り替わります。設定が終わったら、[TRANSPOSE/FUNCTION] スイッチを離してください。

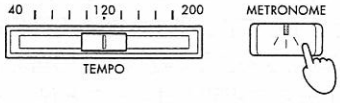


4.メトロノームに合わせて演奏する

正確なテンポに合わせて演奏するときにメトロノームを使うと便利です。このメトロノームは、演奏を録音するときの拍子やテンポの基準にもなります（☞p.16）。

メトロノームを鳴らすときは

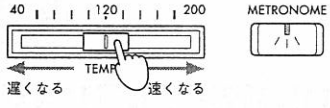
1. [METRONOME] スイッチを押すと、メトロノームがスタートします。



2. メトロノームをストップするには、もう一度 [METRONOME] スイッチを押します。

テンポを調節するときは

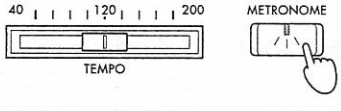
○ [TEMPO] スライダーを動かして、テンポを調節します。
設定できる範囲は、♩ = 40～200です。



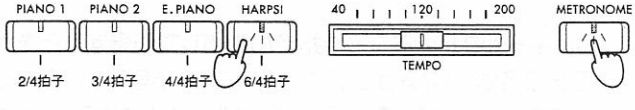
テンポは [TEMPO] スライダーの目盛りと一致しないことがあります。

拍子を設定するときは

1. [METRONOME] スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。



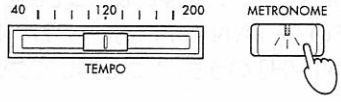
2. [METRONOME] スイッチを押しながら、設定する拍子に対応する [音色セレクター] スイッチを押します。
押した [音色セレクター] スイッチのランプが点灯して、選択した拍子の最初にアクセント音が入ります。
アクセント音を出さないようにするには、ランプの点灯している [音色セレクター] スイッチを押してランプを消灯させ拍子設定を解除します。



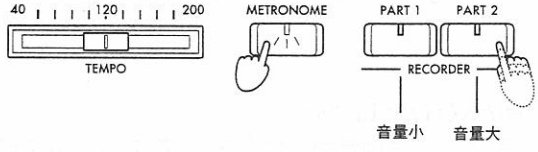
MeMO 電源をオンにした直後は、自動的に"4/4拍子"に設定されます。工場出荷時はアクセント音を出さない設定になっています。

メトロノームの音量を調節するときは

1. [METRONOME] スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。



2. [METRONOME] スイッチを押しながら [PART2] スイッチを繰り返し押すと、音量が大きくなります。
[METRONOME] スイッチを押しながら [PART1] スイッチを繰り返し押すと、音量が小さくなります。



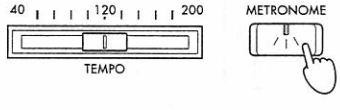
3. メトロノームの音量を元に戻すときは、[METRONOME] スイッチを押しながら [PART1] スイッチと [PART2] スイッチを同時に押します。

MeMO メトロノームの音量設定は、電源をオフにしても記憶されます。

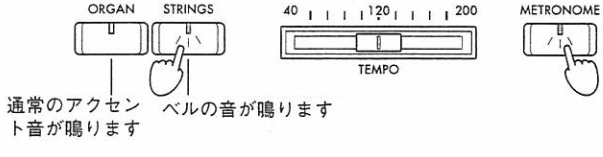
アクセント音を選択するときは

拍子のアクセント音を**ベルの音**にすることができます。

1. [METRONOME] スイッチを押して、メトロノームをスタートさせます。



2. [METRONOME] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの [STRINGS] スイッチを押します。
[STRINGS] スイッチのランプが点灯して、**拍子の頭がベルの音**になります。
通常のアクセント音に戻すときは、[METRONOME] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの [ORGAN] スイッチを押して、[ORGAN] スイッチのランプを点灯させます。

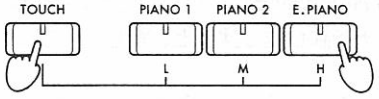


MeMO アクセント音は、電源をオフにしても記憶されます。

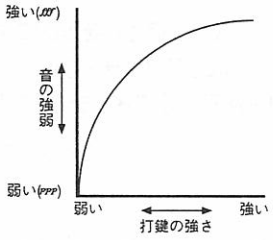
5. 鍵盤のタッチ感を変える

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。これを**タッチ・コントロール機能**といいます。

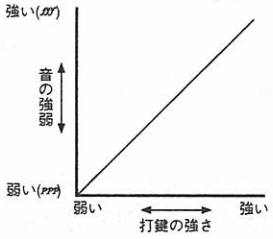
1. **[TOUCH] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの [PIANO1/L]、[PIANO2/M]、[E.PIANO/H] のうち、1つを押してタッチ感を選びます。**
   [PIANO1/L] または [E.PIANO/H] を選んだときは、[TOUCH] スイッチのランプが点灯します。



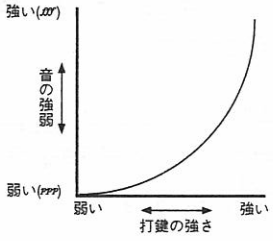
PIANO1/L: LIGHT
弱く弾いても強音が出せるタッチです。(軽いタッチ)



PIANO2/M: STANDARD
通常のピアノタッチです。



E.PIANO/H: HEAVY
強く弾かないと強音が出せないタッチです。(重いタッチ)



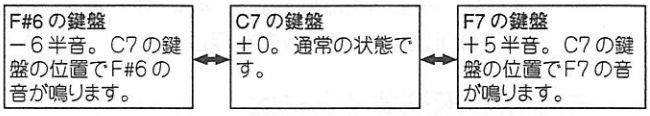
2. **現在選ばれているタッチを確かめるときは、[TOUCH] スイッチを押し続けます。**
   [音色セレクター] スイッチの [PIANO1/L]、[PIANO2/M]、[E.PIANO/H] のうち、設定したスイッチのランプが点灯します。

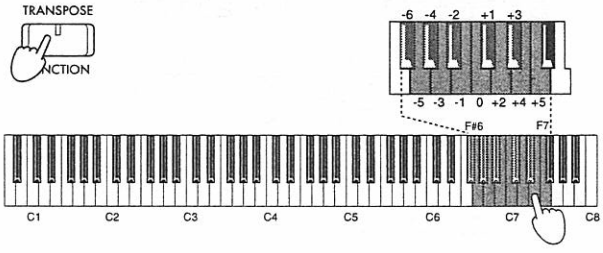
MeMO 電源をオンにした直後は、自動的に "STANDARD" に設定されます。

6. キーを変更する(移調)

キーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これを**トランスポーズ機能**といいます。

○ **[TRANSPOSE/FUNCTION] スイッチを押しながら、F#6〜F7から1つの鍵盤を押します。**
C7以外の鍵を押えると [TRANSPOSE/FUNCTION] スイッチのランプが点灯して、トランスポーズされたことを示します。押さえた鍵の音の高さがC7鍵の位置に対応するように鍵盤全体の音の高さが移調します。11半音の範囲でずらすことができます。

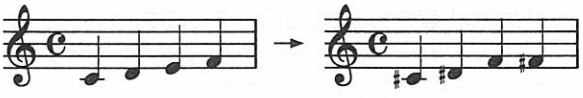




MeMO トランスポーズの設定は、電源をオフにすると自動的に解除されます。

例: 曲の調子を半音上げて演奏するときは
Cの鍵を押さえたときにC#の音が鳴るようにします。

○ [TRANSPOSE/FUNCTION] スイッチを押しながらC#7の鍵盤を押します。
半音上げたとき、左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



例: キーがB♭の曲をGの指使いに直して演奏するときは
B♭の音は、Gの音から見て短3度の(3半音高い)音にあたります。したがって、C7の鍵盤を押したときにC7よりも3半音高いD#7の音が出るようにします。

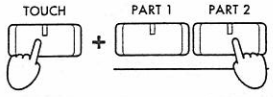
○ [TRANSPOSE/FUNCTION] スイッチを押しながらD#7の鍵盤を押します。

7. 音の高さを微調整する

ピッチ（音高）の微調整を行ないます。
他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。±12.5Hz（427.5Hz〜452.5Hz）までずらすことができます。

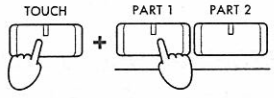
ピッチを上げるときは

○ **[TOUCH] スイッチを押しながら [PART2] スイッチを押します。**
一回押すたびに約0.5Hzずつピッチが高くなります。



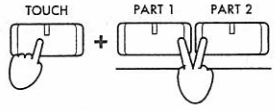
ピッチを下げるときは

○ **[TOUCH] スイッチを押しながら [PART1] スイッチを押します。**
一回押すたびに約0.5Hzずつピッチが低くなります。



元のピッチに戻すときは

○ **[TOUCH] スイッチを押しながら [PART1] スイッチと [PART2] スイッチを同時に押します。**
変更したピッチが元（A4=440Hz）に戻ります。



MeMO 変更したピッチは、電源をオフにしても記憶されます。

8. 音律を選ぶ

クラシック音楽には古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために**キルンベルガー**（Kirnberger）と**ヴェルクマイスター**（Werckmeister）という古典音律と、現在鍵盤楽器で広く用いられている**平均律**の3種類の音律が選択できます。

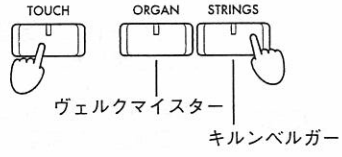
ヴェルクマイスター
ドイツ人のオルガニストで音楽理論家のアンドリアスヴェルクマイスターによる、ヴェルクマイスターIIIスケールです。これはバロック時代後期に比較的自由な移調を目的として考案されたものです。

キルンベルガー
18世紀初めに、ヨハンフィリップキルンベルガーが考案したキルンベルガーIIIスケールです。これは主にハープシコードのチューニングに使用されます。

平均律
現在の鍵盤楽器のほとんどすべてがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

音律を変更するには

○ **[TOUCH] スイッチを押しながら [音色セレクター] スイッチの [ORGAN] スイッチまたは [STRINGS] スイッチを押して音律を選びます。**



平均律に戻すときは

○ **[TOUCH] スイッチを押しながら、ランプが点灯している [音色セレクター] スイッチを押します。**

MeMO 電源をオンにした直後は、自動的に平均律が選択されます。

● [PIANO1]、[PIANO2] の音色では、**ストレッチチューニング**を用いています。ストレッチチューニングは、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。

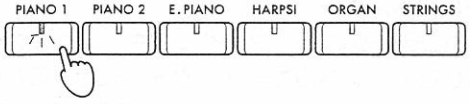
演奏を録音/再生してみましょう

本機のレコーダーは、テープレコーダーを操作する手軽さで鍵盤の演奏を録音、再生することができます。
2つのパートに演奏を録音できます。それを同時に再生し1曲として演奏したり、2曲別々に録音することもできます。

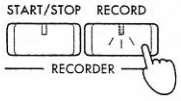
1. 演奏を録音する

演奏を録音するときは

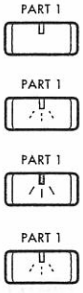
1. [音色セレクター]スイッチを押して、録音する音色を選びます。



2. [RECORD]スイッチを押します。
[RECORD]スイッチのランプが点灯します。

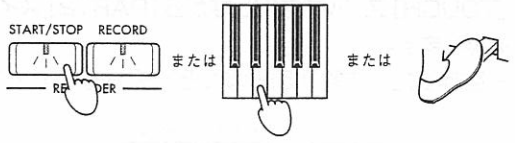


3. [PART1]または[PART2]を押して、録音したいパートを選びます。
録音したいパートのスイッチのランプを、赤の点滅状態にしてください。片方のパートだけ録音待機状態にすることができます。



消灯	このパートには録音データがありません。
赤で点滅	録音待機の状態。このパートに録音をします。
緑で点灯	このパートには録音されたデータがあり再生できます。
緑で点滅	再生ミュート状態。このパートを再生したくないときは、この状態にしてください。

4. [START/STOP]スイッチ、鍵盤、ペダルのどれか1つを押す、またはMIDIメッセージを受信すると録音が始まります。
[START/STOP]スイッチを押したときは、2小節のカウント後に録音が始まります。録音中は[START/STOP]スイッチのランプが拍子に合わせて、1拍目は赤色に、その他の拍は緑色に点滅します。



録音が始まってから[音色セレクター]スイッチを押して音色を切り替えることもできます。
音色を切り替えながら録音すると、音色の切り替えもデータとして記録され、再生するときに音色が切り替わります。

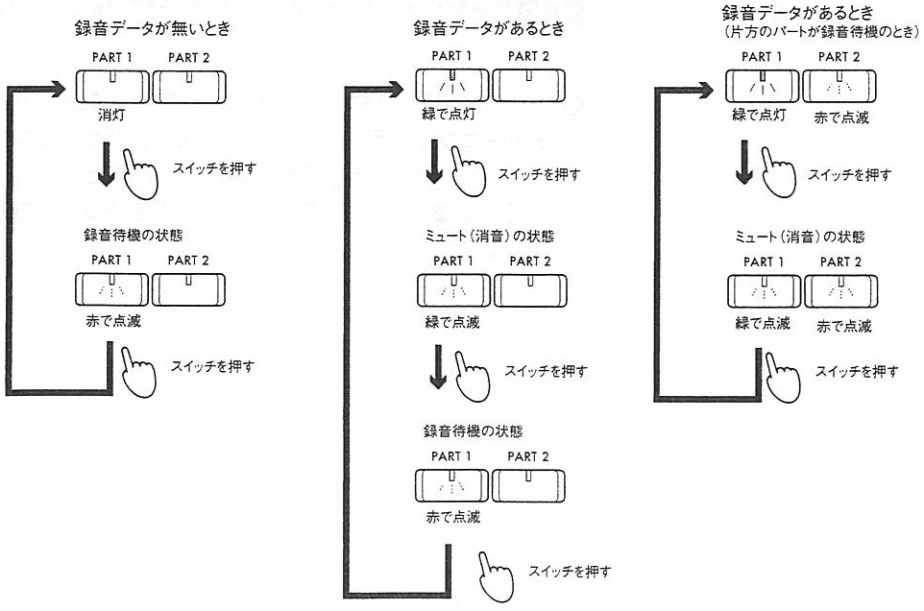
録音中は、絶対に電源をオフにしないでください。

MeMO メトロノームのテンポに合わせて録音するときは、メトロノームを鳴らします(☞p.13)。

5. [START/STOP]スイッチを押すと、録音が終わります。
[PAUSE]スイッチを押すと、スイッチを押した位置で停止し、[PAUSE]ランプは点灯します。[RECORD]スイッチを押してから、続きを録音するパートを録音待機状態にし、鍵盤を弾くと停止した位置から録音を再開します。

録音すると上書きされて、以前の演奏データは消去されます。

一時停止した位置から正しく録音が始まらないことがあります。



2. 録音した演奏を再生する

録音した演奏を再生するときは

1. **録音されているデータがあるときは、[PART1]スイッチ、または[PART2]スイッチのランプが緑色に点灯します。**
   再生したくないパートのスイッチを押し、ランプを点滅にするとそのパートは演奏しません。

2. **[START/STOP]スイッチを押すと、再生が始まります。**
   再生している間は、[START/STOP]スイッチのランプが拍子に合わせて、1拍目は赤色に、その他の拍は緑色に点滅します。
   [TEMPO]スライダーで再生するテンポを変えることができます(☞p.13)。曲のテンポを変えてもピッチ(音高)は変化しません。

3. **再生を停止するときは、[START/STOP]スイッチを押します。**
   曲が停止し、自動的に最初の小節に戻ります。
   曲を一時停止するときには、[PAUSE]スイッチを押すと、スイッチを押した位置で停止し、[PAUSE]ランプが点灯します。
   [START/STOP]スイッチまたは[PAUSE]スイッチを押すと、再生を再開します。
   また、録音したデータをすべて再生し終えると自動的に停止して、[START/STOP]スイッチのランプが消灯します。

再生している曲の途中で[PAUSE]スイッチを押して、一時停止した位置から録音に切り替えたときは、一時停止した位置から正しく録音が始まらないことがあります。

2つのパートの音量バランスを変えるときは

○ PART1、PART2を同時に再生しているときに、[BRILLIANCE]スイッチを押しながら、音量を大きくしたいパートの[PART1]スイッチ、または[PART2]スイッチを押します。
元に戻したいときは、[BRILLIANCE]スイッチを押しながら、[PART1]スイッチと[PART2]スイッチを同時に押してください。

演奏を繰り返し再生するときは

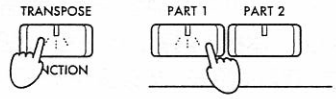
録音した曲全体を、繰り返し再生することができます。

○ **再生中に[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押します。**
[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチのランプが点滅して繰り返し再生します。
再生を停止するときは、[START/STOP]スイッチを押して再生を停止します。このとき繰り返し再生も解除されます。

3. 演奏データを消去します

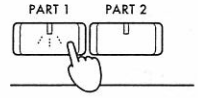
パートを消去するときは

1. **演奏の停止中に[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[PART1]または[PART2]スイッチを押します。**
   [TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチと[PART1]または[PART2]スイッチのランプが点滅し、演奏データ消去の待機状態になります。



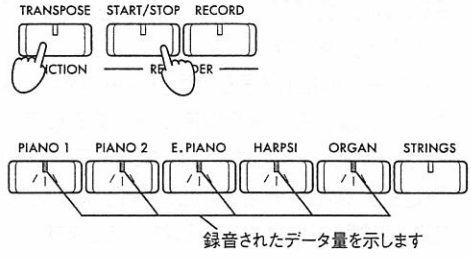
再度[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押すと、演奏データ消去のスタンバイ状態から解除されます。

2. **[PART1]または[PART2]スイッチを押すと演奏データが消去されます。**



どのくらい録音できるか知りたいときは

○ **[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチと[START/STOP]スイッチを同時に押し続けます。**
録音した演奏データ量を[音色セレクター]スイッチのランプが点灯する数で表示します。録音した演奏データ量が増えるに従って、ランプの点灯する数が多くなります。



録音中に録音できる領域がメモリーの残り10パーセント以下(録音できる音数が1400ノート未満になったときや、録音した小節が900小節[最大999小節録音可]を越えたとき)になると[RECORD]スイッチのランプが点滅します。

残しておきたい演奏データは市販のデータファイラーを使って演奏データを保存、管理することをお勧めします。(☞p.20)

他の機器との接続

1. シンセサイザーやオーディオ機器との接続

本機にシンセサイザーやオーディオ機器を接続して、本体のスピーカーから音を出したり、演奏をテープレコーダーなどに録音することができます。

INPUT端子　(L/MONO、R)

シンセサイザーなど他の楽器やオーディオ機器のアウトプット端子と接続して、本機の内蔵スピーカーから音を出すための端子です。音量は接続した楽器やオーディオ機器のボリュームで調節してください。

OUTPUT端子　(L/MONO、R)

オーディオ機器などのインプット端子と接続して、より大きな音を出したり、テープレコーダーなどに演奏を録音するときに使用する端子です。音量は本機の[MASTER VOLUME]スライダーで調節してください。

MIDI端子　(IN、OUT)

シンセサイザー、シーケンサー、リズムマシーンなどのMIDI機器と接続して、情報を交換するための端子です。詳しくは、次の「2. MIDI機器との接続」を参照してください。

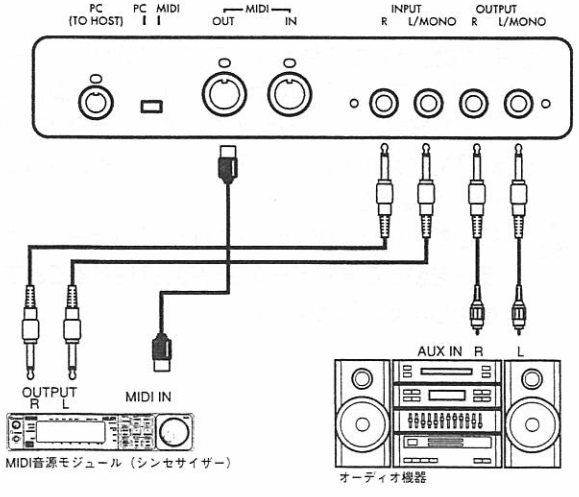
PC(TO HOST)端子

パソコンを接続する端子です。詳しくはp.21を参照してください。

PC/MIDI切替スイッチ

MIDI端子を使うか、PC(TO HOST)端子を使うかを切り替えるスイッチです。

PC/MIDI切替スイッチは、必ず電源をオフにした状態で切り替えてください。
PC端子とMIDI端子を、両方同時に使用しないでください。必ずPC/MIDI切替スイッチで設定した端子だけを使用してください。両方の端子を使用したり、設定と異なる端子を使用した場合、本機と接続されている機器が誤動作する恐れがあります。



2. MIDI機器との接続

MIDI(ミディ)とは?

MIDI(Musical Instrument Digital Interface)は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。
本機を演奏することによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切り替えやダンパー・ペダルなどの効果を、一緒にコントロールすることができます。
また、他のMIDIキーボードやシーケンサー(自動演奏装置)から本機をコントロールして、内蔵音源を鳴らすこともできます。複数のMIDI機器を組み合わせることによって、より多彩なアンサンブルを楽しむことができます。その他にも、本機のレコーダーのデータを保管するときにも、MIDIを使って行います。
ここでは、本機に関連したMIDIの使用方法について説明します。さらにMIDIに興味のある方は、MIDIについてわかりやすく説明した本も、数多く出版されていますので、ご利用ください。

MIDIの接続方法

MIDI情報をやりとりするには、専用のMIDIケーブルを使います。このケーブルを、本機のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は2種類あります。

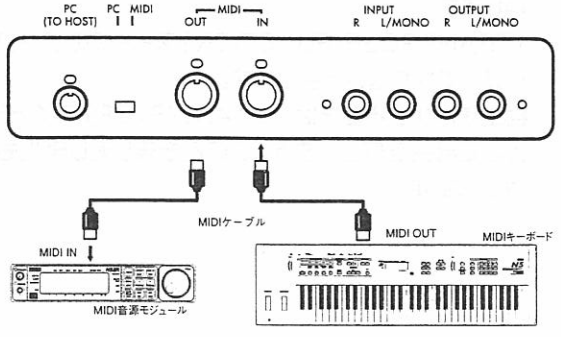
PC/MIDI切替スイッチをMIDI側にしたときは、必ずMIDIケーブルでMIDI端子へ接続してください。
PC/MIDI切替スイッチがPC側になっているときは、いったん本機の電源をオフにして、PC/MIDI切替スイッチをMIDI側にしてください。

MIDI IN端子

MIDI情報を受信します。
外部MIDI機器(MIDIキーボードやシーケンサーなど)で、本機の音を鳴らすなどのコントロールができます。本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子を、MIDIケーブルで接続します。

MIDI OUT端子

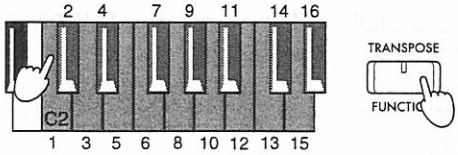
MIDI情報を送信します。
本機を弾いたときなどに出力されるMIDI情報で、外部MIDI機器をコントロールできます。本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子を、MIDIケーブルで接続します。



MIDIチャンネル

MIDI機器との接続が終わったら、本機と接続するMIDI機器のMIDIチャンネルを同じ番号に設定します。MIDIチャンネルには1～16があります。

○ **[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、設定したいMIDIチャンネルに対応したC2～D#3のいずれかの鍵を押します。**



MeMO 電源をオンにした直後は、自動的にチャンネル1に設定されます。

本機をマルチティンバー音源として使うには

本機は、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる16パートマルチティンバー音源として動作します。

1. **本機のMIDI INとシーケンサーなどのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。**
2. **接続したシーケンサーなどからMIDIデータを送信します。**
   接続するシーケンサーなどからの送信方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。
   演奏データと一緒にプログラムチェンジメッセージを受信すると、そのプログラムナンバーに対応する本機の音色で演奏されます。ただし、該当するMIDIチャンネルのプログラムチェンジがイネーブルになっているときに限ります。また、プログラムチェンジやコントロールチェンジのキャンセルはMIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定できます。

ローカルオン・オフの設定

本機の鍵盤を弾いたときに内蔵音源は鳴らさないでMIDIで接続している外部の音源だけを鳴らす場合や、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定したときに戻ってきた情報で二重に鳴るのを防ぐ場合に本機をローカルオフに設定します。通常はローカルオンに設定して鍵盤を弾いたときに本機の音が鳴るようにします。

○ **[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[音色セレクター]スイッチの[PIANO1]スイッチを押します。**
押すたびにオン/オフが切り替わります。

ローカルオン　[PIANO1]のランプ点灯
ローカルオフ　[PIANO1]のランプ消灯

MeMO 電源をオンにした直後は、自動的にローカルオンに設定されています。

プログラムチェンジ

接続しているMIDI機器のプログラム番号を本機から切り替えたり、接続しているMIDI機器から本機のプログラム番号を切り替えます。

プログラムチェンジの送信

接続している外部MIDI機器のプログラム番号を本機から切り替えます。

○ **[音色セレクター]で音色を選ぶと右上にある表のように0～20のMIDIプログラムチェンジナンバーを送信します。**

プログラムチェンジの受信

外部からプログラムチェンジナンバーを受信すると、下の表のように本機の音色が切り替わります。

MeMO 本機は、0～20のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信したときに音色が切り替わります。外部MIDI機器より21以上のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信しても本機の音色は切り替わりません。

	PC#	音色
シングル	0	PIANO1
	1	PIANO2
	2	E.PIANO
	3	HARPSI
	4	ORGAN
	5	STRINGS
レイヤー	6	PIANO1+PIANO2
	7	PIANO1+E.PIANO
	8	PIANO1+HARPSI
	9	PIANO1+ORGAN
	10	PIANO1+STRINGS
	11	PIANO2+E.PIANO
	12	PIANO2+HARPSI
	13	PIANO2+ORGAN
	14	PIANO2+STRINGS
	15	E.PIANO+HARPSI
	16	E.PIANO+ORGAN
	17	E.PIANO+STRINGS
	18	HARPSI+ORGAN
	19	HARPSI+STRINGS
	20	ORGAN+STRINGS

プログラムチェンジキャンセル

プログラムチェンジの情報を送受信しないときはプログラムチェンジをキャンセルに、送受信するときはイネーブルにします。

○ **[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[音色セレクター]スイッチの[PIANO2]スイッチを押します。**
押すたびにキャンセル・イネーブルが切り替わります。

イネーブル	[PIANO2]のランプ点灯
キャンセル	[PIANO2]のランプ消灯

プログラムチェンジキャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてプログラムチェンジキャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた場合でも、1chのプログラムチェンジキャンセルの設定は記憶されています。

MeMO 電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。

コントロール・チェンジ

本機のダンパーペダルなどの情報を接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からダンパーペダルなどの情報を受信して本機をコントロールします。これを送受信するときはコントロールチェンジをイネーブルに、しないときはコントロールチェンジをキャンセルに設定します。

○ **[TRANSPOSE/FUCTION]スイッチを押しながら[音色セレクター]スイッチの[E.PIANO]スイッチを押します。**
押すたびにキャンセル・イネーブルが切り替わります。

イネーブル	[E.PIANO]のランプ点灯
キャンセル	[E.PIANO]のランプ消灯

コントロールチェンジキャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてコントロールチェンジキャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた場合でも、1chのコントロールチェンジキャンセルの設定は記憶されています。

外部からのコントロールチェンジは、本機のペダルの設定の変更（☞p.12「レイヤーにおけるペダルの設定」参照）に関係なくレイヤー機能においても、つねに両方の音色に対して有効となります。

MeMO 電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。

外部シーケンサーを同期させる

本機のレコーダーに合わせてMIDIで接続した外部シーケンサーやリズムマシンなどを同時に演奏（同期）させることができます。
本機は、マスター機（コントロールする機器）として働きますので、接続したシーケンサーなどはスレーブ機（コントロールされる機器）となります。

1. **本機のMIDI OUTとシーケンサーなどのMIDI INをMIDIケーブルで接続します。**
2. **接続したシーケンサーなどをスレーブ機として設定します。**
   接続するMIDI機器のMIDIクロックなどの設定はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。
3. **本機の[START/STOP]スイッチを押して同期演奏をさせます。**
   本機から出力されるMIDIクロック（テンポを合せるための信号）は、[TEMPO]スライダーに従います。

レコーダーのデータを保存するには（データダンプ）

本機のレコーダーに録音した演奏データを、外部のMIDIデータファイラー（記憶装置）に保存し、必要なときに本機レコーダーに読み込み再生することができます。

データファイラーの取扱説明書をよくお読み、データを消してしまわないように十分注意してください。

● **演奏データをデータファイラーに保管します**

1. **本機のMIDI OUTとデータファイラーのMIDI INをMIDIケーブルで接続します。**
2. **データファイラーを操作して本機からのMIDIデータを受信待ちの状態に設定します。**
3. **本機の[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[音色セレクター]スイッチの[STRINGS]を押します。**
   [TRANSPOSE/FUNCTION]、[STRINGS]のランプが点滅し、データダンプ送信待ちの状態になります。
4. **[START/STOP]スイッチを押します。**
   データダンプが始まり、演奏データがデータファイラーに送信されます。送信している間、[START/STOP]スイッチのランプが点滅します。
   送信が終了すると、[START/STOP]スイッチのランプが消灯し、通常の演奏できる状態に戻ります。

ペダルの設定の変更の情報（☞p.12「レイヤーにおけるペダルの設定」）は、データファイラーに記録することはできません。

データダンプ送信待ちの状態やデータファイラーに演奏データを送信している間は本機から音は出ません。データの送信が終り、データファイラーにデータが記録されると通常の演奏できる状態に戻ります。

● **演奏データをデータファイラーから本機のレコーダーに戻します**

1. **本機のMIDI INとデータファイラーのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。**

2. **本機の[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、[音色セレクター]スイッチの[STRINGS]スイッチを押します。**
   [TRANSPOSE/FUNCTION]、[STRINGS]のランプが点滅し、データダンプ受信待ちの状態になります。

3. **データファイラーを操作して、あらかじめ保管しておいた本機の演奏データを送信します(データの送信については、データファイラーの取扱説明書をご覧ください)。**
   本機が演奏データを受信します。受信中には[RECORD]スイッチのランプが点滅します。
   演奏データの受信が終了すると、[RECORD]スイッチのランプが消灯し、データダンプ受信待ちの前の状態に戻ります。

データファイラーから演奏データを受信している間は、本機から音は出ません。データの受信が終り、演奏データが本機のレコーダー内に元どおりに正しく納められると、通常の演奏できる状態に戻ります。

3. コンピュータとの接続

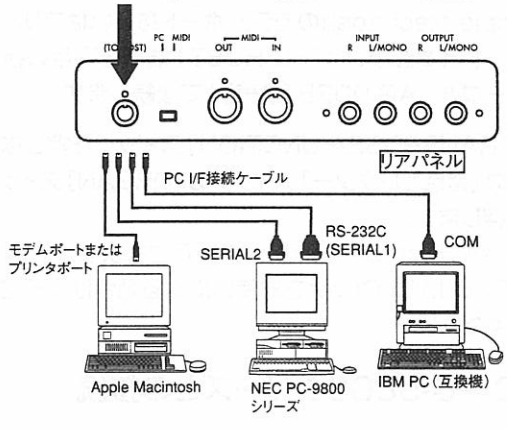
本機は、コンピュータと専用のPC I/F接続ケーブルを接続することにより、コンピュータで本機を鳴らしたり、本機でのキーボード演奏をコンピュータに記録するなど前述のMIDIと同様に行えます。
本機は、IBM PC互換機、Apple Macintosh、PC-9800シリーズのコンピュータと専用PC I/F接続ケーブルで接続することができます。

PC/MIDI切替スイッチは、必ず電源をオフにした状態で切り替えてください。

PC/MIDI切替スイッチをPC側にしたときは、必ず専用PC I/F接続ケーブルでPC(TO HOST)端子へ接続してください。
PC/MIDI切替スイッチがMIDI側になっているときは、いったん本機の電源をオフにして、PC/MIDI切替スイッチをPC側にしてください。

本機では、PC/MIDI切替スイッチをMIDI側にすると、自動的に同期周波数が31.25kbpsに設定されます。その後、PC/MIDI切替スイッチをPC側にしても31.25kbpsのままです。必要に応じて設定しなおしてください。

PC(TO HOST)端子
コンピュータから本機をコントロールしたり、本機からコンピュータへMIDI情報を送ることができます。
本機のPC(TO HOST)端子とコンピュータをそれぞれのコンピュータ用のPC I/F接続ケーブルで接続します。



IBM PC互換機との接続

接続キットAG-001B（接続ケーブル、ドライバー・ソフト"KORG MIDI Driver"）［別売］で接続します。
ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特に本機をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。

1. **IBM PC互換機のシリアルポート（COMポート）と本機のPC（TO HOST）端子を専用の接続ケーブル（AG-001B［別売］）で接続します。**
   コンピュータのシリアルポートが25ピンの場合は9ピン－25ピン変換アダプターをご利用ください。
2. **［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押しながら［音色セレクター］スイッチの［HARPSI］スイッチを押します。**
   同期周波数が38.4kbpsに設定されます。
3. **Windowsでお使いになるKORG MIDI Driverをインストールします。**
   インストールの方法は別紙をご覧ください。

Apple Macintoshシリーズとの接続

接続キットAG-002B（接続ケーブル、ドライバー・ソフト"KORG MIDI Driver"）［別売］で接続します。

シリアル・ポート（モデム／プリンタ）を持たないMacintoshでは、TO HOST端子に接続して使用することができません。

1. **Apple Macintoshのモデムポートあるいはプリンタポートと本機のPC（TO HOST）端子を専用の接続ケーブル（AG-002B［別売］）で接続します。**
2. **［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押しながらの［音色セレクター］スイッチの［ORGAN］スイッチを押します。**
   同期周波数が31.25kbpsに設定されます。
   KORG MIDI Driverをお使いになる場合は別紙をご覧ください。

NEC PC-9800シリーズとの接続

RS-232C（SERIAL1）を利用する場合

接続キットAG-003B（接続ケーブル、ドライバー・ソフト"KORG MIDI Driver"）［別売］で接続します。
ただし、コンピュータの機種、またはアプリケーション（シーケンサー）の種類によってはご使用になれませんので注意してください。
アプリケーション（シーケンサー）はRS-232C/MIDI変換アダプターの使用できるもの、またはWindowsに対応しているものにかぎります。

1. **NEC PC-9800シリーズのRS-232C（SERIAL1）端と本機のPC（TO HOST）端子を専用の接続ケーブル（AG-003B［別売］）で接続します。**
2. **［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押しながらの［音色セレクター］スイッチの［ORGAN］を押します。**
   同期周波数が31.25kbpsに設定されます。
3. **MS-DOS上のアプリケーション（シーケンサー）をお使いになる場合は、RS-232C/MIDI変換アダプターモードに設定します。**
   また、Windowsでお使いになる場合はKORG MIDI Driverをインストールします。
   インストールの方法は別紙をご覧ください。

SERIAL2を利用する場合

接続キットAG-001B（接続ケーブル、ドライバー・ソフト"KORG MIDI Driver"）［別売］で接続します。
ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特に本機をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。

1. **NEC PC-9800シリーズのSERIAL2端子と本機のPC（TO HOST）端子を専用の接続ケーブル（AG-001B［別売］）で接続します。**
2. **［TRANSPOSE/FUNCTION］スイッチを押しながらの［音色セレクター］スイッチの［HARPSI］スイッチを押します。**
   同期周波数が38.4kbpsに設定されます。
3. **Windowsでお使いになるKORG MIDI Driverをインストールします。**
   インストールの方法は別紙をご覧ください。

故障とお思いになる前に

電源が入らない

- 電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか?(☞p.7)
- 電源スイッチがオンになっていますか?(☞p.7)
- それでも電源が入らない場合は、電源コードをコンセントから抜いて、最寄りのコルグ製品販売店にご相談ください。

音が出ない

- 本機の[MASTER VOLUME]スライダーが上がっていますか?(☞p.7)
- ヘッドホンのプラグが差し込まれていませんか?(☞p.7)
- 現在選んでいるパートがミュートされていませんか?(☞p.16)
- ローカルオンになっていることを確認してください。(☞p.19)

音が途切れてしまう

- 本機の音色は、元になる楽器の音をサンプリング(録音)し、分析/加工してつくられています。音色によって1つの鍵盤を押すと、サンプリングデータの1つを鳴らす音色と、2つを鳴らす音色があります。
  [PIANO 1]の音色では、2つのデータを鳴らします。これらの音色を選ぶと、ダンパーペダルを踏んでいるときも含め、同時に発音させることができる音数は32音となります。それ以外の音色では最大同時発音数は64音となります。
  また、レイヤーにして同時に2つの音色を鳴らすときのサンプリングデータを1つ使っているか、2つ使っているかで、最大同時発音数は異なってきます。たとえばサンプリングデータを、1つ鳴らす音色と2つ鳴らす音色を組み合わせると、最大同時発音数は21音になります。レイヤー機能を使用するときや、レコーダーに複数のパートを録音する場合は、音色の組み合わせを上手に選んでください。

特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- 本機のピアノ音色では、ピアノ本体の音をできる限り忠実に再現しようと加工してつくられています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

ペダルの効果が正しくかからない

- ペダル用コネクターがはずれていませんか?(☞p.26)

録音できない

- レコーダーの空き領域は十分にありますか?(☞p.17)

送信したMIDIデータに外部機器が応答しない

- MIDIケーブルやPC専用接続ケーブルが、すべて正しく接続されていることを確認してください。(☞p.18)
- 受信機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを送信していることを確認してください。(☞p.19)

同期周波数が設定できない

- PC/MIDI切替スイッチがMIDI側になっていませんか?(☞P.20)
  MIDI側にすると常に31.25kBPSに設定されます。

仕　様

鍵盤	88鍵（A0～C8）
音色	6音色: ピアノ1、ピアノ2、エレクトリックピアノ、ハープシコード、オルガン、ストリングス
音源システム	HIシンセシスシステム
最大同時発音数	64音
効果	リバーブ（3段階）、コーラス（3段階）、ブリリアンス（3段階）
レコーダー	2パート、最大14,000ノート テンポ、メトロノーム、レコード、スタート/ストップ、ポーズ
キーボードモード	シングル、レイヤー
音律	3
タッチ・コントロール	3段階（ライト/スタンダード/ヘビー）
コントロール	パワースイッチ、マスターボリュームスライダー、トランスポーズ/ファンクションスイッチ、タッチスイッチ、音色セレクター、テンポスライダー、メトロノームスイッチ、デモスイッチ、PC/MIDI切替スイッチ
ペダル	ダンパー*、ソフト*、ソステヌート（*印: ハーフ・ペダル対応）
接続端子	PHONES×2、INPUT（L/MONO、R）、OUTPUT（L/MONO、R）、MIDI（IN、OUT）、PC（TO HOST）
メインアンプ	24W×2
スピーカー	16cm×2
電源	AC100V　50Hz/60Hz
消費電力	45W
外形寸法	1379(W)×458(D)×875(H)mm
重量（スタンド含）	45.5kg
付属品	ヘッドホン、高低自在椅子
オプション	AG-001B、AG-002B、AG-003B接続キット

※　仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

・　MIDIおよびGENERAL MIDIは社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。

・　その他の商品名、社名は、各社の登録商標および商標です。

・　Sound Processed with INFINITY™

スタンドの組み立て方

⚠ 注意

本体組み付けは二人以上で行ってください。

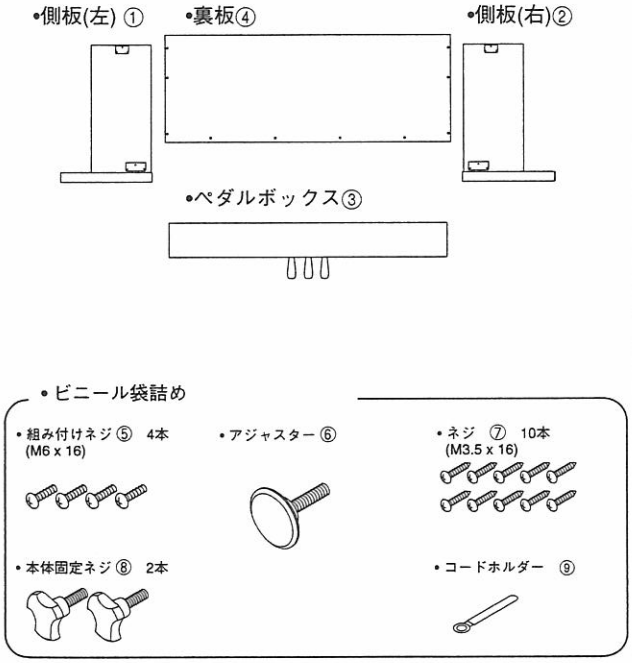
本体をスタンドに乗せるときに、手をはさまないよう、注意してください。

部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。

本体をネジで固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので注意してください。

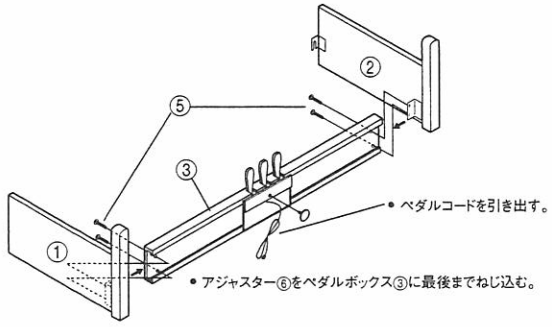
1. 箱をあけて部品を取り出します。

下記部品が揃っているのを確認してください。
組み立てのために、お手持ちの＋（プラス）ドライバーを用意してください。



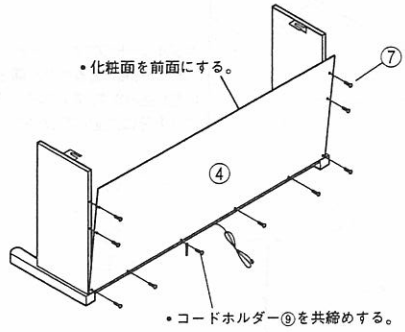
2. 側板（左）①と側板（右）②をペダルボックス③に組み付けネジ⑤4本で組み付けます。

組み立ては必ず下図のように、スタンド背面側を平らな床などに置いて行ってください。



3. 裏板④を組み付けます。

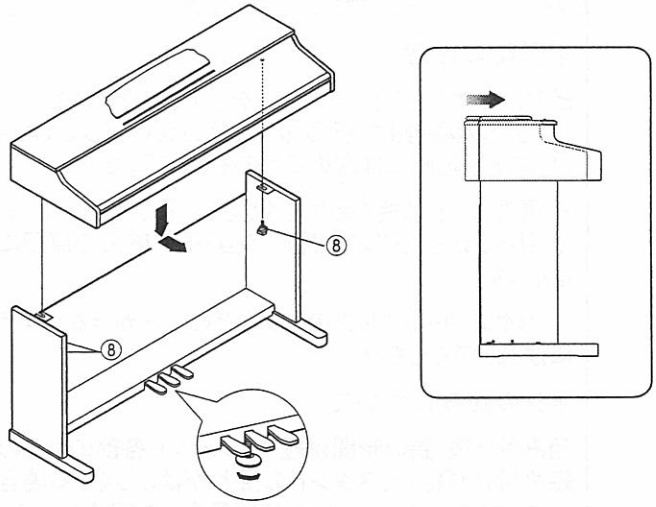
ネジ⑦で裏板④の下側（5ヶ所）を先に固定し、次にネジ⑦で側板（片側2ヶ所）に固定します。
ネジ⑦1本でコードホルダーを共締めします。



ここでスタンドに隙間やかたむきがないことを確認してください。

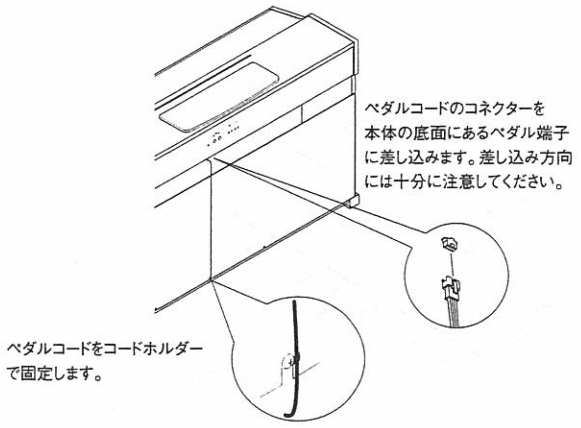
4. 本体を組み付けます。

本体をスタンドの中央にのせ、後ろ側から軽く持ち上げ前側に動かします。本体固定ネジ⑧2本で下方から固定します。



アジャスターを回して、アジャスターが床にしっかり当たるように調節してください。
アジャスターが床にしっかり当たらないとペダルがぐらつき故障の原因になります。

5. ペダルコードを接続し、固定します。



組立後のチェック

- ❑ 部品は余っていませんか?
  余っている場合は図中の使用先の位置を確認してください。
- ❑ 取付ネジのゆるみを確認してください。

⚠ 注意

移動時の注意

ピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「本紙」に従い、組み付け直してください。また移動時には次のことを注意してください。

・ 電源コードは短く束ねてください。長い場合、コードが引っかかったりして、断線、ショートや破損の原因になります。

・ ペダルコードをドアのノブなどに引っかけないように注意してください。

ネジの緩みについて

組み付け後、長い時間が経つとスタンド各部のネジの締め付けが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには各ネジを締め直してください。

分解について

本体組み付け、スタンドの組立の逆の順番で分解してください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

[デジタルピアノ]
C-4500

MIDIインプリメンテーションチャート

1999.9.1

ファンクション...		送信	受信	備考
ベーシックチャンネル:	電源ON時	1	1	
	設定可能	1—16	1—16	
モード	電源ON時		3	
	メッセージ	×	×	
	代用	**********		
ノートナンバー:		15—113	0—127	
	音域	**********	21—108	
ベロシティ:	ノート・オン	1—127	1—127	
	ノート・オフ	×	×	
アフタータッチ:	キー別	×	×	
	チャンネル別	×	×	
ピッチ・ベンダー		×	×	
コントロールチェンジ	7	○	○	ボリューム
	11	○	○	エクスプレッション
	64	○	○	ダンパーペダル *1
	66	○	○	ソステヌートペダル *1
	67	○	○	ソフトペダル *1
	120, 121	○	○	オールサウンドオフ、リセットオールコントロール
プログラムチェンジ:		0—20	0—20	*2
	設定可能範囲	**********	0—20	
エクスクルーシブ		○	○	Device Inquiry Sequence Data Dump
コモン:	ソング・ポジション	×	×	
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアルタイム:	クロック	○	×	
	コマンド	○	×	
その他:	ローカル・オン/オフ	×	○	
	オール・ノート・オフ	○	○123—127	
	アクティブセンシング	○	○	
	リセット	×	×	

備考

*1　コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。
*2　プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。

モード1:　オムニオン、ポリ　モード2:　オムニオン、モノ
モード3:　オムニオフ、ポリ　モード4:　オムニオフ、モノ

○:　あり
×:　なし

※MIDI IMPLEMENTATIONの配布についてはコルグ・インフォメーションへお問い合わせください。

アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一、保証期間内に製造上の不備による故障が生じた場合は、無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし、次の場合の修理は有償となります。

1. 消耗部品（電池など）を交換する場合。
2. 輸送および移動時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
3. 天災（火災等）によって生じた故障。
4. 故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
5. コルグ・サービスステーションおよびコルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が、不適当であった場合。
6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
7. 保証期間が切れている場合。
8. 日本国外で使用される場合。

■修理や運送費用が、製品の価格より高くなることもありますので、あらかじめコルグ・サービスステーションまたはインフォメーションへご相談ください。運送にかかる往復の費用は、お客様のご負担とさせていただきます。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3ヵ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。コルグ・サービスステーションまたはインフォメーションまでお問い合わせください。

■保証期間が切れますと修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年間を基準に保有しております。ただし、外装部品（パネルなど）の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎(03)5376-5022
東京営業所	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎(03)3323-5241
名古屋営業所	〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町 100-51	☎(052)832-1419
大阪営業所	〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川5番館7F	☎(06)6374-0691
福岡営業所	〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-25 第2池田ビル1F	☎(092)531-0166

■修理等は、最寄りの各営業所または下記までお問い合わせください。

営業技術課　〒143-0001 東京都大田区東海 5-4-1 明正大井5号営業所 コルグ物流センター内
☎(03)3799-9085

<WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

（この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。）

C-4500

KORG

KORG

■本社：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)3325-5691
■インフォメーション：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17 ☎(03)5376-5022
■東京営業所：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17 ☎(03)3323-5241
■名古屋営業所/ショールーム/スタジオ：〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町 100-51 ☎(052)832-1419
■大阪営業所：〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川5番館7F ☎(06)6374-0691
■福岡営業所：〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-25 第2池田ビル1F ☎(092)531-0166

© 1999 KORG INC.

1108 GH *Printed in Japan*

KORG MIDI Driverのインストールとセットアップ

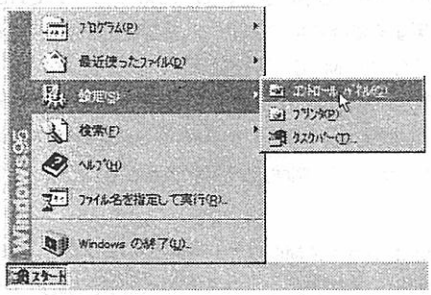
KORG MIDI DriverのWindows95/98へのインストールと設定

KORG MIDI DriverのWindows95/98へのインストール方法

お使いになるアプリケーション(シーケンサー)がWindowsに対応している場合、KORG MIDI Driverを使用しますと、シリアル・ポート(COM、RS-232C)に接続したKORGの音源をMIDIデバイスとして扱えるようになります。

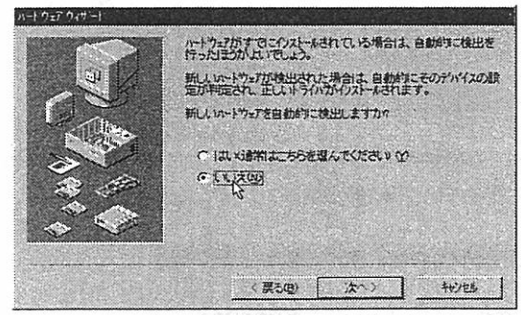
お使いのコンピュータの処理速度が十分に速くない場合、MIDI INデータを正しく受信できないことがあります。Windows NTはサポートしていません。

① タスクバーの[スタート]ボタンをクリックして、設定の中の「ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ」をクリックします。

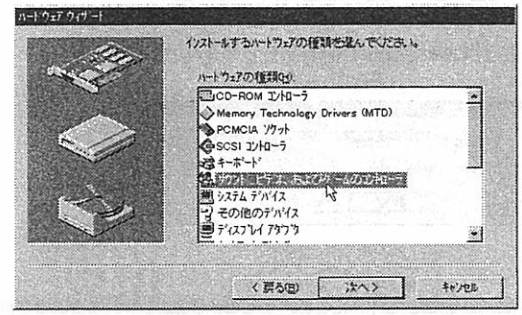


② ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙの中の「ﾊｰﾄﾞｳｪｱ」または「ﾊｰﾄﾞｳｪｱの追加」アイコンをダブルクリックすると、「ﾊｰﾄﾞｳｪｱ ｳｨｻﾞｰﾄﾞ」が起動するので、Windows95では[次へ>]をクリックします。Windows98では[次へ>]をクリックして、次の説明が表示されたら再度[次へ>]をクリックします。

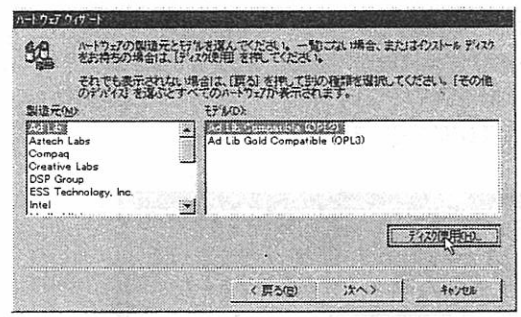
そして「新しいﾊｰﾄﾞｳｪｱを自動的に検出しますか?」で必ず「いいえ」を選択して[次へ>]をクリックします。



③ 「ｻｳﾝﾄﾞ、ﾋﾞﾃﾞｵ、およびｹﾞｰﾑのｺﾝﾄﾛｰﾗ」を選択して[次へ>]をクリックします。



④ [ﾃﾞｨｽｸ使用]をクリックします。



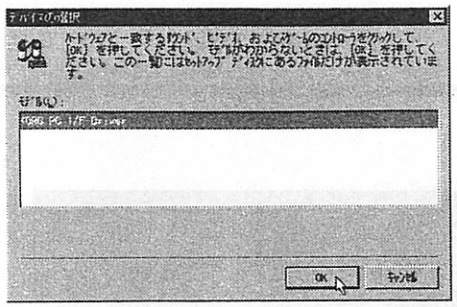
⑤ ドライブおよびディレクトリを求めてくるので、AG-001B、AG-003BなどKORG PC I/F Driverの入ったディスクをフロッピー・ドライブに入れ、そのドライブ名を入力します。例えばAドライブの場合は"A:¥"と入力します。ボーナス・ディスク*などIBM(DOS/V機)用とPC-98xxシリーズ用の両方が入っているディスクの場合には、次のように入力します。

DOS/V機やNECの98NXの場合は、
"A:¥IBM" (Bの場合は"B:¥IBM")
NECのPC-98xxシリーズの場合は、
"A:¥PC98" (Bの場合は"B:¥PC98")
と入力します。

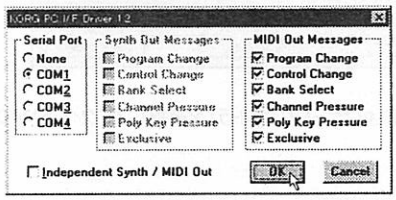
©1999 KORG INC.

1203 GH *Printed in Japan*

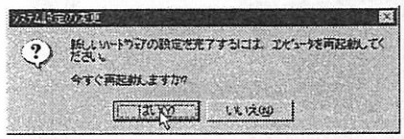
[OK]ボタンをクリックして、[完了]をクリックします。



⑥ 後半で説明する「KORG MIDI Driverのセットアップ」に従って設定を行い、[OK]ボタンをクリックします。



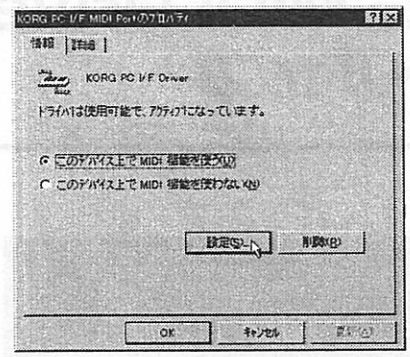
⑦ ドライバを有効にするために必ず再起動させてください。



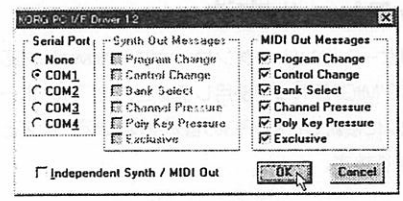
KORG MIDI Driverの設定

① 「ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ」の中の「ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ」アイコンをダブルクリックすると、「ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」ダイアログが表示されます。
右上の「詳細設定」タブをクリックします。
「MIDIﾃﾞﾊﾞｲｽ」の左端の[+]をクリックして(表示が[−]に変わります)、「KORG PC I/F MIDI Port」をクリックします。
そして[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックします。

② 「KORG PC I/F MIDI Portのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」が表示されるので、[設定]ボタンをクリックします。



③ 後半で説明する「KORG MIDI Driverのセットアップ」に従って設定を行い、[OK]ボタンをクリックします。設定を変更した場合にはWindowsを再起動させてください。



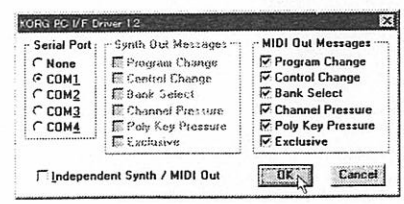
KORG MIDI Driverのセットアップ

① Serial Portでは本機を接続したシリアル･ポートを"COM1"から"COM4"の中から選びます(PC-98xxシリーズでRS-232Cを使用する場合には"COM1"を、SERIAL2を使用する場合には"COM2"を選択してください)。KORG MIDI Driverを組み込んだ後に、シリアル･ポートを別の用途に使うときには、"None"を選んでドライバを無効にするか、またはドライバを「削除」してWindowsを再起動させてください。

② "Independent Synth / MIDI Out"がチェックされていないときは、Default MIDIに出力されたデータは音源とMIDI OUTの両方に送られます。"Independent Synth / MIDI Out"がチェックされているときは、お使いの音源機種によって動作が異なります。
本機ではこの機能をサポートしていないため、Independent Synth / MIDI Outはチェックしないでください。

③ Synth Out Messagesでは本機へ送るメッセージを選ぶことができます。また、MIDI Out Messagesでは音源装置のMIDI OUTから出力されるメッセージを選ぶことができます。

④ 選択が終わったら[OK]ボタンをクリックします。また、変更を取り消したい場合は[Cancel]をクリックします。
設定を変更した場合にはWindowsを再起動させてください。



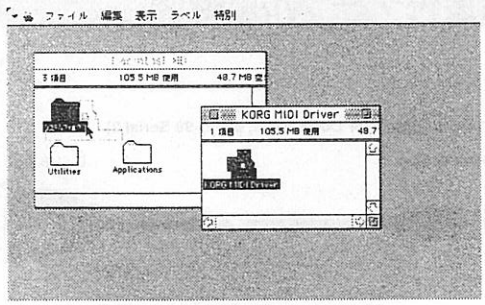
KORG MIDI Driverの Macintoshへのインストール

KORG MIDI Driverは、ご使用になるMIDIアプリケーション(シーケンサー)がApple MIDI Manager上で動作する場合に、使用することができます。

Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーションを使う場合は、KORG MIDI Driverをインストールする必要はありません。MIDIアプリケーションのMIDIの出力ポート設定で本機が接続されているPortを選択し、クロックの設定を[1 MHz]に設定してください。

KORG MIDI Driverを使用するには、あらかじめApple MIDI ManagerおよびPatchBayがインストールされている必要があります。Apple MIDI ManagerおよびPatchBayは、お使いのMIDIアプリケーションに付属されているものをお使いください。AG-002Bには付属していません。
KORG MIDI Driverを使うと、"Modem MIDI Out/Port setting"ダイアログで、本機に送るMIDIチャンネルとメッセージの種類を設定することができます。そのような機能が必要ない場合は、KORG MIDI Driverを使わずに、Apple MIDI Driverをそのまま使用することができます。Apple MIDI Driverを使う場合は☞P.4を参照してください。

① AG-002Bの付属ディスク内のKORG MIDI Driverを起動ディスクのシステムフォルダにコピーします。



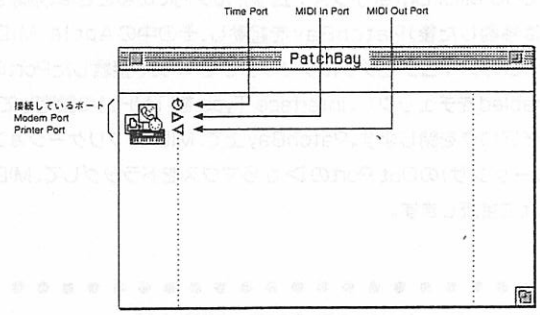
② システムフォルダ内にApple MIDI Driverがあるときは削除するか、他のフォルダに移動してください。Apple MIDI Managerは削除や移動を行わないように注意してください。

KORG MIDI Driverは、Apple MIDI Driverの機能を含んでいます。

③ 特別メニューから"再起動"を選択します。

KORG MIDI Driver(Macintosh)のセットアップ

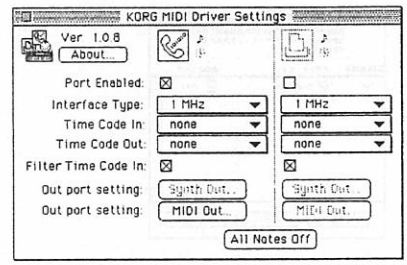
① PatchBayを起動します。



インストールが正しく行われた後、PatchBayを起動すると上図のようにPatchBayウィンドウ内にKORG MIDI Driverのアイコンが表示されます。(Modem/Printerの各ポートはセットアップの状態により表示が異なる場合があります。)

② PatchBayの中のKORG MIDI Driverのアイコンをダブルクリックします。

セットアップダイアログが表示されます。

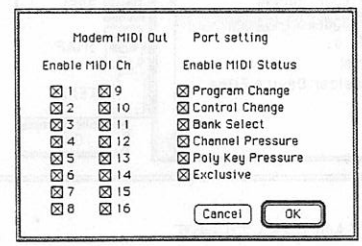


③ 本機を接続しているポートの Port Enableをチェックし、Interface Typeを[1 MHz]に設定します。

本機にはKORG PC IFが内蔵されていないので、[KORG PCIF]を選択しないでください。

④ [Out Port Setting]ボタンを押します。

次のダイアログが現れます。ここで各ポートへ出力されるMIDIチャンネル/メッセージを選択することができます。チェックされているチャンネル/メッセージのみ出力します。



⑤ 設定後、[OK]ボタンを押します。

⑥ MIDIアプリケーション(シーケンサ)を起動して、MIDIアプリケーションのOut Portの▷からマウスをドラッグしてMIDI DriverのMIDI Outに接続します。

PatchBayの使用方法については、"🍎"メニューの"About PatchBay ..."等の説明をご覧ください。

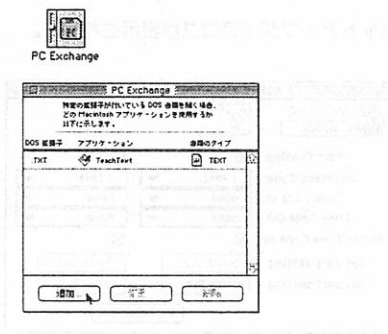
Apple MIDI Driverを使用する場合

(KORG MIDI Driverがシステムフォルダ内にあるときは、削除または移動した後)PatchBayを起動し、その中のApple MIDI Driverのアイコンをダブルクリックして、本機を接続したPortのEnabledをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定して、ダイアログを閉じます。PatchBay上で、MIDIアプリケーション(シーケンサ)のOut Portの▷からマウスをドラッグして、MIDI Outに接続します。

PC ExchangeによるSMFの変換方法

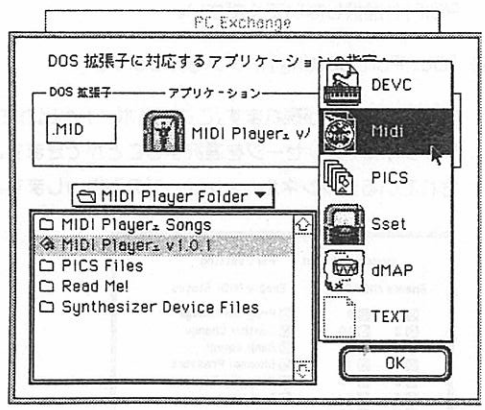
市販のスタンダードMIDIファイル(SMF)のソングファイルのほとんどが、MS-DOSフォーマットで保存されています。
PC Exchangeを使用すると、MS-DOSフォーマットのSMFソングファイルをMacintoshで認識できるようにすることができます。

① コントロールパネル内のPC Exchangeを開きます。



② [追加...]ボタンを押します。

[DOS拡張子に対応するアプリケーションの指定]ウィンドウが現れます。



③ DOS拡張子項目に".MID"と入力します。

MS-DOSでは、ファイルの種類を分類するために拡張子というピリオドの後に続く3文字をファイル名の後につけます。SMFには、".MID"という拡張子をつけるのが一般的です。

④ ダイアログの下半分に表示されている一覧から、お持ちのSMFを扱えるMIDIアプリケーション(シーケンサ)を選びます。

アプリケーション項目に選択したアイコンが現れます。

⑤ [書類のタイプ]ポップアップメニューから[Midi]を選び、[OK]ボタンをクリックします。

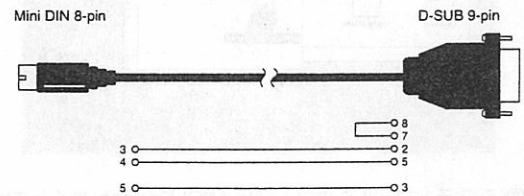
PC Exchangeウィンドウに追加された項目が表示され、登録されました。

MS-DOSのSMFをディスクドライブに挿入すると、そのまま使用することができます。

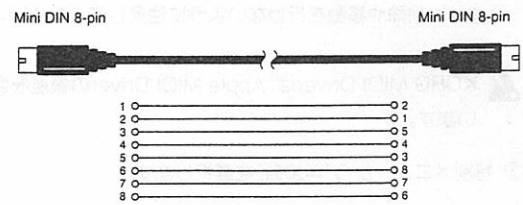
詳しくは"Macintosh PC Exchange"の解説をご覧ください。

専用接続ケーブル配線図

(1) AG-001B (for IBM PC or Compatible, or PC-98 Serial 2)



(2) AG-002B (for Macintosh)



(3) AG-003B (for NEC PC-98)